

令和7年度神戸大学前期日程 入試問題『出題の意図・評価ポイント』

国語

- ※1 この『出題の意図・評価ポイント』についての質問、照会には一切回答しません。
- ※2 配点（素点）は入試問題に記載してあります。
なお、本学入学者選抜のための教科・科目ごとの配点については、令和7年度神戸大学学生募集要項を参照してください。

【出題の意図・評価ポイント】

一（現代文）

学力の三要素のうち「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価するために、4000字を超える長文評論の内容理解について記述式で解答する読解問題を出題している。

問一・問二・問三

「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を多角的に試す記述式問題。それぞれの傍線部の意味を正確に理解するには、まず語彙に関する一定水準の知識が欠かせない。また、単に傍線部の前後だけを手掛かりにするのではなく、より広い文脈に即して論理展開をたどりながら、傍線部の意味内容を捉える思考力と判断力も必要となる。問一は人間が二つの異なる論理を生きていることをふまえ、その両者の差異についての理解を問うている。問二は人間が不可避の死を克服するために行ってきた試行錯誤とその結果について、そして問三は人間が死を受け入れるために必要な逆説的条件についての、書き手の心情をふまえた理解を問うている。いずれの問いも、解答に盛り込むべき内容を80字という制限字数内にまとめる技能、適切な語彙を用いて説得力のある文章へと練り上げる表現力を、総合的に評価することを意図している。

問四

設問の趣旨は問一・問二・問三と同じだが、本文全体の論旨をふまえて解答をまとめることを求める点で、より高度な読解力・表現力を試すことを意図している。制限字数は160字と長く、答案を一文で作成することは求めていない。傍線部が直接的に意味するところを汲みながら、前半にまでさかのぼって本文全体の論理の筋道を正確に読み取るという、論理的な思考力が求められる。論点を列挙するだけでは充分ではなく、それを論理的に再構成し端的に表現する能力も必要となる。前の三問で求められていた以上に高度な「思考力・判断力・表現力」を総合的に判定することがこの設問の狙いであり、評価のポイントもそこにある。

問五

標準的な漢字の書き取りを課すことで、日本語の語彙に関する「知識・技能」を試す問題。はっきりと、くずさないで書くことを求めている。ただし、いずれも本文の文脈に即する必要がある、その意味で間接的に「思考力・判断力・表現力」を試す設問でもある。

二（古文）

問一

- ①「いつしか」を適切に訳せることと「思ひし」の内容を理解しているかを問うた。
- ②内容とともに反語の文脈であることを理解しているかを問うた。
- ③古文単語としての「世の中」を理解し、「うらめしげ」を文脈に沿った形で訳せるかを問うた。
- ④「ゆかしさ」の内容を理解した上で、文法事項も含め適切に訳せるかを問うた。

問二

作者と継母との約束の内容を踏まえた上で、現状とそれに対する作者の心情を適切に描写できるかを問うた。

問三

姫君が書き写した和歌の内容と、それが端正な筆致で書写されていることとに落差を感じた経験を簡潔に論述できるかを問うた。

問四

基本的な文法事項を理解できているかを確認した。

問五

古典常識に属すると思われる事柄を遺漏なく学習しているかを確認した。

三（漢文）

問一

- ①漢文の再読文字「当」の読みを正しく理解できているかを問うた。
- ②漢文の中の「嘗」の読みを正しく理解できているかを問うた。
- ③漢文の中の「安」の読みを正しく理解できているかを問うた。
- ④漢文の二重否定「莫不～」の読みを正しく理解し、書き下せるかを問うた。

問二

指示代名詞の内容を文脈に沿って理解できているかを問うた。

問三

問題文の内容を正しく理解できているかを問うた。

問四

漢文の基本構文である「寧～、不～」を正しく理解し、的確な日本語で表現できるかを問うた。

問五

傍線部の受身構文と文意を正しく理解した上で、問題文全体の流れをふまえ、的確な日本語で説明できるかを問うた。